



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年にひとりの日本人がインドシナ難民救援に参加したことを契機として誕生しました。以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 55 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

✧ 書き損じ年賀状で国際協力

年賀状などの「書き損じはがき」がありましたら、どうぞ当機構にお送り下さい。海外スタッフ及び支援者のみなさまへの郵便物発送、その他事務作業のために用いさせていただきます。お問い合わせは、人財育成／啓発 (大阪 072 - 920 - 2227) 松島まで。

✧ 海外で活動を目指す方のために 『第 29 回』オリエンテーション・トレーニング

当機構を通して海外のパートナーと共に活動することを希望する方々や、国際協力に関心をお持ちの方々のための学びと準備の機会です。ご参加お待ちしております。

日程：3 月 7 日 (月) ~ 11 日 (金)

会場：hi-ba 千葉九十九里浜キャンプ場 (千葉県長生郡一宮新地)

費用：37,000 円 (テキスト代 5,000 円を含む)

定員：12 名

◎お問い合わせは愛知事務所まで

✧ 今年もワークキャンプ開催

2011 年 8 月、ボリビア、フィリピン、ウガンダで今年も夏のワークキャンプを行う予定です。

✧ 吉田知基をパキタンに派遣

1 月 14 日から 20 日、洪水被災者支援活動の調査のために吉田知基を派遣しました。次号で報告します。

✧ 2011 年も本 de リンク！

～眠っている古本や CD で国際協力～
愛知事務所まで御連絡ください。
12 月報告 本：486 冊、CD：78 枚、
ゲームソフト：31 本

ハンガー・ゼロ・サポーター大募集中！

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。



当機構の協力企業 (株) キングダムビジネスが「ハンガーゼロ・レギュラーコーヒー」(モカブレンド 200g 入り、税込み 600 円) を商品化。この商品は、飢餓に苦しむアフリカの人々を支援するために同社がオリジナル商品として企画し、日本人好みの口当たりのよいコーヒーにブレンドしました。最初のアフリカ支援として、商品 1 袋につき 150 円、当機構が支援しているアフリカ・ケニアの教育施設『シーブケアセンター』の給食支援プログラムの応援に充てられます。150 円は同センターの給食 5 食分相当となります。



シーブケアセンターでは、ケニアの首都ナイロビのスラム地域で、貧困家庭の子どもたちを集め、食料と教育の機会を提供しています。まずご自宅や職場でお試しください。商品のお求め先は、キングダムビジネスまでお願いします。電話 072-940-6814 まで。

- ☐ ハンガー・ゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口、協力します。(1 口 1,000 円)
- ☐ JIFH 会員になり毎月定期的に財的協力をします。
毎月 () 口、協力します。(1 口 500 円)
- ☐ 「世界里親会」に協力します。
説明書、里親会入会申込書を送ってください。
- ☐ 海外派遣スタッフを支援します。
毎月 () 円 () スタッフ指定
- ☐ 海外派遣スタッフを支える会の会員になり、
協力します。毎月 () 口 (1 口 1,000 円)
- ☐ 郵便自動引落の申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名： _____ 男・女

〒 _____
フリガナ
住所： _____

(電話) _____

▼申込日： _____ 年 月 日 ▼

FAX・072-920-2155

ハンガーゼロ・サポーターのお申し込み拡大中です。運動への参加を感謝いたします。



日本国際飢餓対策機構

2011 No.247

2

飢餓対策 News



今年の冬は日本列島各地で記録的な寒波が到来し、多くの地域で雪による被害が続出していますが、いかがお過ごしでしょうか。被害に遭われた方々におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

2011 年も 2 月に入り、振り返ると 21 世紀の最初の 10 年が過ぎ、次の 10 年に向かって私たちは歩みだしています。子どもたちの夢見た 21 世紀の世界は、飛躍的な科学技術の発達で、私たちの生活をさらに便利に快適にし、そして世界がひとつとなってゆく平和で安全な姿でした。しかし現実、確かに私たちの生活は便利に快適になりましたが、さまざまな面で人が希望をもって生きるのに極めて厳しい状況となっているように思います。

米国での 9・11 同時多発テロ勃発によって幕開けた 21 世紀、今までの戦争とは異なるテロという形態が世界のどこで起こるか分からない、という恐怖が私たちを不安に陥れました。その後のイラク、アフガニスタン侵攻や 2003 年の 21 世紀の大虐殺ともいわれるスーダン・ダルフル紛争など、人が安全安心に生きるのを危うくする事柄が頻発しました。世界規模の

経済危機は、貧困に苦しむ人々の生活を直撃し、弱い立場にいる人々の命がないがしろにされてきました。これからの 10 年、この世界はどうなってゆくのか。いや、この世界をどうして行きたいのか。そんなことを思い巡らせている新年の冒頭、「平和を実現する者は、幸いです」(マタイ 5 章 9 節) この聖書のことばで決意を新たにしました。

私たちは、今までもそうであったように、決して歴史の傍観者でなく、歴史を生み出してゆく当事者でありたいと願っています。テロの温床は貧困だけに限るわけではない

平和を作りだすために

のですが、それでも今なお大きな要因のひとつです。飢餓と貧困に苦しむ人々に手を差し伸べ続けてゆくことが、誰もが食べることができる世界、誰もが平和で安全に生きられる世界を作り上げてゆくことの一步であると信じています。これからの 10 年も、平和を実現する皆さんの手足として日本国際飢餓対策機構をどうぞ用いてください。

国内啓発総主事 田村治郎

★ご協力を感謝します★皆様に飢餓対策ニュースをお届けするために、毎月、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛 (大阪市など)、そして関西一円のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さいます。ありがとうございます！

■ 発行者	岩橋竜介	大阪	〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1 TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
■ 発行所	一般財団法人 日本国際飢餓対策機構	東京	〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 517 号室 TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
	Web サイトアドレス http://www.jifh.org/ e メールアドレス general@jifh.org	愛知	〒466-0064 名古屋市中区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
■ 郵便振替	00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構 ※支援金は随時受け付けております。	広島	〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号 TEL (082)831-1214 FAX (082)877-3961
		沖縄	〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号 TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540



携帯サイト

1 分間に 17 人 (うち 12 人が子ども) ・1 日に 2 万 5 千人 ・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。



5月 大阪・愛知・広島・沖縄・東京で ハンガー・ゼロ・アフリカ チャリティーコンサート開催



奇跡の4本指のピアニスト

イ・ヒアさん出演決定!!

韓国のイ・ヒアさんは、5月20日から28日まで、日本各地でハンガーゼロ・アフリカ チャリティーコンサートを開催して下さることになりました。当機構の韓国スタッフ、カン・ヘウォンが、韓国ソウルでインタビューしました。



【イ・ヒア】1985年ソウル生まれ。先天性の障害により、両手の指が2本ずつしかなく膝下の足がない。彼女の将来を案じた母の強いすすめで、5歳よりピアノを始め、1日10時間に及ぶ練習にも耐えた。7歳で学生音楽コンクールの最優秀賞受賞を皮切りに、1993年6月、全国障害者芸術大会で最優秀賞。1999年には、障害克服大統領賞を受賞。その後も数々の賞に輝き韓国のみならず世界のメディアで絶賛される。現在、世界各地で数多くのコンサートに出演し、多くのオーケストラと共演、様々な苦しみをもつ人々に、愛と希望を伝え続けている。

したいです。

Q最後に日本のみなさんへ
メッセージをお願いします

イ・ヒアです。この度、日本でチャリティーコンサートを開くことができるのはとても嬉しく、神様に感謝しています。私の演奏を通して、貧しく飢餓に瀕しているアフリカの人々に希望を伝えることになることを願っています。また、日本でも経済的に厳しい人々が多いと思いますが、その人々にも、本当の希望と喜びをぜひ伝えたいです。

当機構ウェブサイトではイアさんの紹介動画がご覧いただけます。

Q日本でのチャリティー
コンサートの経験は

2007年に日本テレビの「24時間テレビ」というプログラムで、有名な日本人歌手の平原綾香さんと共演させていただきました。また2008年4月にJIFHとヘレンケラー財団が主催された、東京の紀尾井ホールでチャリティーコンサートに出演しました。日本のチャリティーイベントで演奏することができ、幸せでした。そのような機会を通して、少しずつ私のことが日本でも知られるようになりました。

Qヒアさんに最も影響を
与えた人は

まず、イエス様です。そして、私の分身のような母です。いつも私を励まし応援してくれます。時には厳しい母ですが、私が子どもの時から楽譜も読めるようにそばで教えてくれました。

Qヒアさんが、喜びを感じる
のはどんな時ですか

賛美をする時が一番嬉しいです。私は、歌を通して神様を伝え

たいです。また神様にお祈りする時、喜びを感じます。

Qヒアという名前の意味は

ヘブライ語で「神の子」という意味です。神様の子ともだから私はとても幸せです。

Qヒアさんの夢は

私の夢は、音楽を通して世界中の人に希望を与えるヘレンケラーのような人になることです。

Qハンガーゼロ・アフリカ チャ
リティー コンサートにどんな
期待を持っていますか

アフリカにある問題は深刻ですが、人々の心はとても純粋ですね。食べ物がないことが原因で死ぬのは本当に辛いことです。皆さんと一緒にこのアフリカの人々に、希望と愛があることを伝えたいです。日本も経済が厳しいですけど、もっと厳しい状況にあるアフリカの人々のことをこのコンサートを通して伝えたいです。分かち合うことがどれほど大切なことか、皆さんに知っていただきたいと思います。またこのような良い機会があれば、続けて参加

●ハンガー・ゼロ・サポーターのお申し込みは、専用ウェブサイト <http://www.jifh.org/hungerzero/> からできます
ハンガーゼロチャリティーコンサート情報は次号でお知らせします、またウェブサイトではいち早く情報を掲載します。

Republic of the Philippines

サンアンドレスの人々

フィリピン駐在スタッフ 酒井慶子

2年半前、緊張してサンアンドレスの村に入った始めての日、電気がないバランガイホール(公民館)で宿泊しました。自警団の一人、テン・シソンさんは私たちの安全のため奥さんのマリエット、お嬢さんのジュディアン(当時11歳)、息子さんのジョンマリ(当時8歳)と一緒に泊まって下さいました。

その日以来、村から徒歩1時間の山奥にある原住民、マンヤンの集落を訪ねる時はいつも同行して下さいました。ミンドロ島の山奥にはNPAといわれる共産ゲリラが隠れ住んでいるからです。重い荷物を持つのはいつもテンさん。マリエットさんはいつも私の



テン・シソンさん

リュックをにこっと笑ってもぎ取り、背負ってくれるのです。ある時、テンさんは翌日お仕事があるにもかかわらず付き添って来て下さり、ご自分は朝4時に山を降り、帰り道はマリエットさんと子どもたちが同行してくれる、とい

うこともありました。子どもたちもお父さんとお母さんの手伝いをよくします。「お父さんとお母さんはいつも一緒なの」とジュディアン。

テンさんは結婚する前は他の村のマンヤンの居住地で木こりをさ

—第1回—

シソンベ夫妻

れていましたが、結婚後奥さんの里であるサンアンドレスに住むようになりました。サンアンドレスでもマンヤンの結婚式には後見人になったり、彼らが困っているときは助けたりと、たくさんのマンヤンと関わっておられるのです。マン村への訪問はお二人の助けがなければ続けられませんでした。昨年マリエットさんの弟さんが借金の保証人になり、多くの負債を抱えたので、テンさんは自分の



●酒井慶子●
2008年4月、夫の酒井保とともに持続可能なコミュニティ開発に取り組むためフィリピン・ミンドロ島に赴任。スタッフトレーニング、少数民族の識字教室などに関わる。



マンヒットさん

田んぼを義弟に貸し、ご自身は果物を運ぶ仕事を始められ、9月以降はほとんど村で見かけなくなりました。自警団も辞退されたそうです。自分の家庭が大へんになっても親戚を助ける。彼の心の大きさが見えます。

ご夫婦そろって口数が少ないけれどもいつもそっとそばにいてくれる。照れ屋さんのテンさんが「マホガニーの植林をしたいんだ」と夢を話して下さったこともありました。この夢がビジョンとなり、達成される日がきますように。



ラクヨ高校の卒業式（2009年）では10人が卒業しました

報告：ボリビア駐在 小西小百合

私はアンデス山中の標高4,000m以上に位置するタパカリ郡チャヤ地域において、世界里親会および人づくりコーディネーターとして活動しています。チャヤで世界里親会の活動が始まった1999年から10年余りが経ち、現在までの歩みを振り返る時に、この地で様々な活動の実を見ることが出来ます。チャヤ地域の村々には以前は小学校しかありませんでしたが、2001年高校（中高等科）が創設され、2002年には学校寮が始められて、遠隔地の村々の子どもたちも高校へ就学できる道が開かれました。そして2004年には地域の人々の長年の夢だった第一回の高校卒業式が挙行され、また誰もが想像できなかった、女子の高校卒業生が毎年輩出されるようになりました！これ

は、以前は“女子に教育は不必要だ”と言って娘を学校へ行かせなかった親たちの教育に対する価値観の変革の表れだと、とても嬉しく思っています。

また私たちは地域の親と地域政府が自分たちでさらに地域発展のために考え、働き、その責任を担うようにと願いつつ働きかけてきましたが、その一環として、当機構が支援協力してきた3つの特別プロジェクト（学校給食支援、学校寮支援、学校寮内の農業プログラム支援）のうち、2010年から学校給食の責任を郡政府が経済面も含めて100%担うようになりました。これは当機構のチャヤ支援終了後、地域の人々自身による各プロジェクトの持続的運営を考えてのことです。今年度はさらに地域に諸活動の責任を委譲していこうと思っています。

念願のパソコン教室が実現

また昨年末には当機構と郡政府の支援、地域の人々丸となった働きにより、人々の念願だったラクヨ本校コンピューター教室が



ボリビア・チャヤ 10年の結実

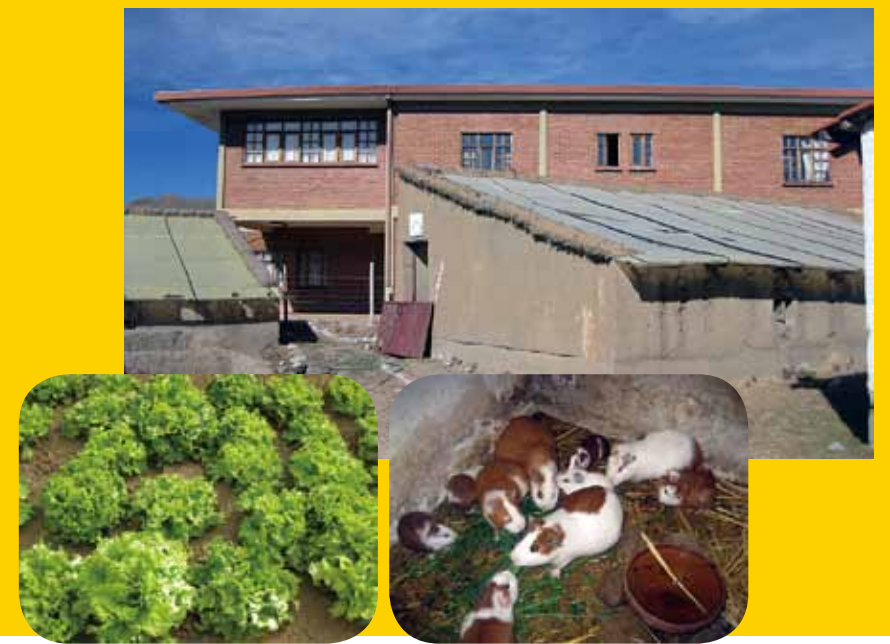
完成しました。今年度（2011年度）からは小学校高学年から高校までのクラスでコンピューターの授業を開始する予定です。それによりチャヤ地域の子どもたちが、街の子どもたちに劣らない学習環境でしっかりと勉強し、技術や知識を得て、卒業後の進路に役立てて欲しいと心から願っています。

このため昨年8月のJIFHワークキャンプでは、このコンピューター教室建設の手伝いをして頂きました。スタッフ1名と他3名の計4名の参加で、高地で働くキャンパーの方々の健康を考え、作業は3日間ほどと少なめにしました。そしてその分家庭訪問をはじめ学校寮生との文化交流、地域集会への参加、地域市場訪問、去年のワーク地・ヤルビコヤ村小学校



パルコマ小学校の子どもたちと（中央に小西スタッフ）

ラクヨ学校寮とグリーンハウス（手前のハウス）



学校寮グリーンハウスで育ったレタスと食用モルモットとして飼育しているクイ

のシャワーとトイレ見学（子どもたちが実際に使用しているところを見学）、ラクヨ学校での感謝夕食会参加など、異文化体験を沢山して頂く事ができ感謝でした。

現地の活動でもうひとつ私が深く関わらせて頂いているのが「人づくりの働き：地域の若者を育てること」で、これ

チャヤ地域教会の合同集会



2011.2
No.247
5

心からの感謝を伝えて！

は“ひとりのたましい、人生に深く関わり、その人の成長を助ける”ことです。以前飢餓対策ニュースでご紹介しましたが、私たちが成長を願いつつ様々な面で関わり続けてきた当機構の元里子・アンセルモ青年（24歳）は、2年前からチャヤ・ラクヨ学校寮の寮長（責任者）として、また29歳のエドゥアルド青年は2年間学校寮の職員として働いた後、昨年から国際飢餓対策機構ボリビアのチャヤスタッフ（私の同労者）として雇用され私たちと共に働いています。二人とも当機構の奨学生として高校卒業後3年間街の農業専門学校で学び、自分の出身地に戻ってきたチャヤ地域出身の青年たちで、彼らの成長をとても嬉しく思っています。

「この10年間で起こったチャヤの変化はすごいです。多くの子どもたちが学校で勉強ができるようになり、地域の環境も改善されました。僕も勉強をし、専門を身につけ、今このようにFHの職員として働くことができるようになりました。それを日本の皆さんにぜひ伝えて下さい。そして日本の支援者の皆さんに私たちからの心からの感謝を伝えて下さい！」エドゥアルド青年は力強く言いました。

私たちはチャヤの支援終了を2011年末に予定しています。引き続き「人づくり」の働きと、地域の人々へ委譲できる「持続性」を念頭においた活動を心がけいきますので、今後も皆様の温かいご支援をよろしくお願い致します。



ヤルビコヤ村家庭訪問

短信 小西小百合は、昨年10月に開催された「世界食料デー大会」などで活動報告をしたあと、1月13日に再びボリビアに戻り、元気に活動を再開しています。これからもご支援をよろしくお願いいたします。



私の趣味がお役に立てるなら喜んで



やまぐち み はる
山口三治さん（愛知県豊川市）



記念切手の収集がとても流行しました。それ以来家内と集めていたのですが、5年後に家が火事になってなくなってしまったんです。しかしそれからまた収集を再開しましたので、約40年の間集めていた事になりますね。

Q世界の飢餓に苦しむ方々を助けたいと思われるようになったきっかけは

私は1934年生まれで戦争を体験しています。当時は、食べる物もなく厳しい状況でした。JIFHの活動を2年前に初めて知り、飢えで苦しんでいるアフリカの人たちの現状をニュースレターや講演で知る度に昔の自分と重なって、「彼らのお役に立ちたい」と思うようになりました。

Q世界の飢餓の現状に対してどのような願いを持っておられますか

私は中学2年生の時に病気で母を亡くしました。親孝行もろくに

できず、とても辛く悲しかったです。アフリカでは、子どもが小さいうちに親がエイズや食料不足が原因で亡くなることが少なくないと聞きました。そのような辛い思いをする子どもたちがこの世界から1人でも減って欲しいと願います。まさにJIFHが掲げているように、この世界全体が「飢餓のない（ハンガー・ゼロ）世界」になって欲しいと思います。

愛知県豊川市在住の山口三治さん。長年収集されていた段ボール箱いっぱいの切手や記念コインを、「世界の飢餓で苦しむ方々のために用いて下さい」と当機構へ寄付して下さいました。今回は山口さんにインタビューさせて頂きました。

QなぜJIFHに切手や記念コインを寄付しようと思われたのですか

1年半前に家内が亡くなり、家の整理をしていたら今まで家内と一緒に集めてきた切手や記念コインがたくさん出てきました。私も今年で77歳。こんなにたくさんの切手やコインがあっても、天国へは持っていきません。それなら是非、誰か人のために役立てて頂きたいと思い、JIFHへお送りしました。

Qどのくらいの期間集められたのですか

1964年のオリンピック以降、



未使用切手や記念硬貨は、郵送料削減に大いに役立っています！

取材ノート

「私にできる事をしたまでですから。神様から頂いたものは神様にお返しします。」と、山口さんが言われた言葉が心に響きました。昨年、趣味のマジックで67ヶ所の福祉施設を慰問されたとのこと。ここにも「私にできる事」で地域の隣人を励まし続けられる山口さんの心の温かさを感じました。すばらしい支援者の方々によって、私たちの活動は支えられているのだと、背中がシャキッと伸ばされる思いでした。
愛知事務所 小島亮子

))) 真摯に努力する里子の姿に頭が下がった (((

新しい年の幕開け、2011年「飢餓対策ニュース」1月号の表紙の写真に目が留まった。閉じた目、合わせた手、無心に祈る子どもの姿は「平安そのもの」、見る者の心を打つ。それに比して、飢えのために1分間に12人の子どもの命が失われているという現実、あまりにも痛ましい。

私が始めて里親になったのは、1999年、教会でJIFHのスタッフからフィリピンの貧しい子どもたちの話を聞いた時であった。当時、孫娘が小学生であったので、同年代の女の子の里親を希望したように記憶している。最初に与えられた里子はブリハン地区に住む12才の少女でシェラと言った。将来は教師になって家族を支えたいというのが、彼女の目標であった。ブリハン地区は2003年から自立の道を歩むことになり、里子も代わった。次の子はパラニャケ市のジェニーという11才の英語の好きな女の子だった。成長記録の「学習したこと」の欄に『感謝すること』と書かれてあるのを見て、学校では学業だけではなく、心の豊かさ、生活そのものが変化するような教育が行われている事を知った。

2006年にこの地区も地域の人々が自立して歩む事になり、3人目の里子は、現在まで続いて

いるパリパラン地区に住むルフィエルという12才の少女である。父親は家庭放棄とか…。将来は看護師になって生活を支えたいというのが彼女の夢である。成長記録



石黒さんの現在の里子ルフィエル・アン・ダニップちゃん（フィリピン）



を見ると、元来内気で一人ぼっちであったが、今や神を崇め仲間たちとの社会性もつき、他人を気遣うまでに成長した。また、良い成績をとるため一生懸命に最善を尽

くしている、とも書かれてあった。以下は彼女が私に当てた自筆の手紙からの引用である。

『親愛なる里親様、あなたが神の恵みの中にありますように。受け取った数々のものに感謝します。私は通知表で一番上の成績がとれた事をご報告できて嬉しいです。私は高校3年生になります…来学期もさらに頑張る事をお約束します。なぜなら、あなたに私を誇りにして貰いたいからです…。何といういじらしさであろうか。あなたは私の誇りですとも！目の前に居たら、ギュッと抱きしめていたであろう。逆境の中にあっても目標に向かって真摯に努力する彼女の姿に頭が下がった。』

里親になって13年目を迎え、未だ会ったことのない3人の里子から私自身が多くを教えられ、考えさせられた。日本の豊かさ、豊かさの中の貧しさ、日本の子どもたちについては、多くの課題があると思う。無心に祈る貧しい国の子ども達の将来も、私たち大人が守らなければ…と痛感した。フィリピンの3人の里子をこれまでに守り、お導き下さった神の愛に心から感謝し、これからも変わらない祝福を祈り続けたい。

石黒義子さん（奈良県奈良市）